

会議の名称	第5回 鳥海地域協議会
開催日時	平成18年2月23日(木) 午前9時30分
開催場所	由利本荘市 鳥海総合支所 講堂
出席者氏名	「出席者名簿」のとおり
欠席者氏名	(次葉 取消線の者)
<p>(会議次第)</p> <p>1. 鳥海地域協議会会長あいさつ</p> <p>2. 鳥海地域自治区長あいさつ</p> <p>3. 協議事項</p> <p>    ①「由利本荘市国土利用計画(案)」について</p> <p>    ②「由利本荘市総合発展計画 基本計画(案)」について</p> <p>    ③その他</p> <p>4. 鳥海総合支所長あいさつ</p>	
会議の経過	別紙のとおり



(会議の経過)	
第5回 鳥海地域協議会	
平成18年2月23日(木) 午前9時30分 開会	
村上振興課長	(開会) 「ただ今より第5回鳥海地域協議会を開会します。初めに松田会長よりごあいさつ申し上げます。」
会長	「おはようございます。皆様にはご出席いただき、ありがとうございました。1月31日の協議会でいろいろご意見が出された。これについては、2月1日に、区長、総合支所長と協議をしながら、本庁の方に意見として送った。今回、新たに皆さんにお配りしている中に多少加除されているので、お含み願いたい。また、今日、この会議で出されたことを本部へ報告することになっているので、ご協議願いたい。また27日には地域協議会長らが出席する審査会を持っている。そういうことを含めて、皆さんにいろいろなご意見を出してもらいたい。」
村上振興課長	「続きまして、佐藤鳥海地域自治区長よりごあいさつ申し上げます。」
佐藤区長	「皆さん、おはようございます。第5回の地域協議会ということで、何かとお忙しいところ、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。今日は由利本荘市国土利用計画、由利本荘市総合発展計画の最終的な確認ということで、再度、ご意見をいただくということですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。また、今日、研修ということで、3つ目にありますが、八幡町と鳥海町とで峰越手代奥山林道整備推進協議会をつくり、国・県に向けて活動して来ましたが、今年度の総会を開催し、八幡は合併し酒田市になっており、こっちも由利本荘市ということで、新しい市に引き継いで、さらに運動を展開していくと。特に、環鳥海の観光振興に国土交通省が支援するという記事もありますので、そういう方向に呼びかけをしながら、早期に整備できるように話し合いを行ったところでもあります。ぜひとも道路の必要性をアピールするためには、交流が必要だということで、交流を含めた研修もいいのではないかとということで案をつくりましたので、その点につきましてもご審議を賜りたいと思っておりますので、よろしくご協議をお願い申し上げます、一言、開会の挨拶とさせていただきます。」
村上振興課長	「それでは、会議に入らせていただきますが、会議の議長は条例第9条第4項の規定により会長が務めます。」
議長	「今日の協議議題は由利本荘市国土利用計画と由利本荘市総合発展計画の基本計画である。事務局の方から説明願います。」
振興課 佐藤主席参事	「先日お送りしました、国土利用計画、2月16日現在をご覧ください。国土利用計画の前提となる面積の把握ですが、前回の数値はダミーということでしたが、今回示された数値は前回の2000年農林業センサスから出された数値ということですので、あらかじめご承知おき願います。農用地、9ページと6ページで1ヘクタール記述が違っておりますがコンマ以下の数字の丸め方によるもの。このほか農林業センサスをもとにして地域の主要事業加味しながら加減しているということです。当地域の原野の数値が「0」となっており、現実的には考えられない数値ですが、あくまで統計上のものでありますのでご理解をお願いします。」

文言の訂正ですが、20 ページ、最後の行、利用転用を利用転換に訂正という連絡がありました。各地域の地域協議会での内容に沿って、アンダーライン部分が訂正されています。当地域においては、鳥海ダムウェートのウェートが大きく、主に国道 108 号と鳥海ダムに関係する数値が整理されています。国土利用計画の説明は以上です。」

議長 「国土利用計画について、ご質問等ないか。」

A 委員 「何もなし。」

議長 「補足することはないか。」

事務局 「ありません。」

議長 「由利本荘市国土利用計画は確認されたものとしします。次に、由利本荘市総合発展計画の中の基本計画について協議したいと思います。説明願います。」

振興課  
佐藤主席参事 「基本計画の資料をご覧ください。事業計画の 21 ページ上段、アンダーラインの部分が追加されています。「ブルーアンドグリーンツーリズム」という文言が追加されていますが、ブルーツーリズムとは、海のツーリズム、そういうニュアンスであります。続いて 23 ページ、8 つの地域拠点が新市のサテライトとなるべきとあり、では中核はどこかという疑問があります。27 ページの図表ですが、前回この協議会でお話のありましたように、湯沢市の先に仙台市、庄内地方のところに酒田市とかを入れたらということで、これは後で挿入されるという連絡が入っています。30 ページの図表についても、道の駅も鳥海地域に入れるべきだということで申し入れており、最終的に編集の段階で入れるということです。

41 ページをご覧くださいと思います。(3)「漁業の振興」を「水産業の振興」に訂正願いたいということでした。

45 ページ、この地域からの要望として「鳥海高原地域から峰越手代奥山林道」という文言を入れていただいています。

48 ページは訂正で、鳥海高原部の「鳥海地域総合ミュージアム」のジの後の長音記号をとる。最終行ですが、「実施していきます」から「盛り込みます」に変更になっています。

49 ページでは、「伝統食の商品化を含め」を、この地域からの要望として出しています。70 ページの中ほどの図表で、上水道給水状況で、平成 16 年追加されていますが、これを削ってくださいとのことでした。

85 ページ、前回まで文言のなかった「奥羽本線まで山形新幹線の延伸」ということで、鳥海地域からの要望として出しています。このほかに入れるべき文言がございましたら、会長が 27 日の会議で出すとことになっておりますので、よろしく願います。」

議長 「主な訂正箇所、というよりも、要望を取り入れて文言を修正している。皆さんからお気づきの点やご意見、ご要望をお出しいただきたい。」

B 委員 「24 ページの矢島地域にエコミュージアムが載っている。これは鳥海地域の発想で持っていた経緯がある。この文章だと、矢島の方でやるということで明確に出ているのではないのかなという気がする。市長からは「鳥海に限らず、場所のいい所に」という発言も出ている。このように明確になると、矢島ということになるのではないか。」

佐藤区長

「これはまるっきり性格が違うものでありまして、エコミュージアムとは、矢島の地域全体を指しているのであって、建物の建設とかをいうのではない。環境に配慮した、まち全体を考えて言っているのであり、新たな建設事業を意味しているのではないし、事業は今年度で終わるものであります。」

B委員

「(鳥海)ミュージアムの建設に関連するのではないか。」

佐藤区長

「特に関連はありません。」

佐藤総合支所長

「エコミュージアムですが、これは平成17年度で完了という中で、矢島地域にも建物はあります。野菜王国から見える建物で、田園空間整備事業でやったものです。矢島地域はあれで終わり、鳥海地域ミュージアム構想とはまったく別のものです。もともと、エコミュージアムということで、矢島地域全体を自然の中の公園という位置づけで、あのものだけでなく、花立公園の整備などもやってきていますが、それらの中心になる建物があります。」

鳥海地域総合ミュージアムについては、矢島・由利を含め、3地区の中で、前々からあった獅子の館を中心とした、鳥海山の全体の本当の拠点となるようなもの、特に鳥海山の場合、年間の天気がなかなか良くない。せっかく来ても鳥海山に登れなかったとかということも多くあり、そういう時に、歴史・文化に触れるものがない、それらを含めた総合的なものにしたいと。そういうことで、鳥海の地域づくり研究会の中からでたものです。合併協議会の中で建設計画を立ち上げた際に、鳥海だけのものでもないということをはっきりしていますし、一体計画の中に最初に取り上げられたものです。ですから、矢島にあるものとは違うと。この計画段階で、情報交流の拠点を造るということをつくったもので、我々が考えているものとは違います。」

B委員

「鳥海町で計画していた「獅子の館」の経緯もあり、鳥海から出ていると期待し、認識している。途中から、鳥海山の開発ということで、大きなあれだということもわかる。獅子の館、伝承館、鳥海荘との関連とか、そういうものとの関係はどうなるのか。」

佐藤総合支所長

「今、平成18年度に観光振興計画が策定されます。その中で、鳥海地域総合ミュージアムについても触れられると。当然、環鳥海の関係の事業展開についても明らかにされてくると思っています。矢島地域で出しているエコミュージアムは矢島地域だけの話です。」

佐藤区長

「この田園空間整備は、特に水路、ため池整備とか、環境にやさしい形で造るということで、鳥海のオノ神堰も入っている平成18年度もやるということ。今、水路の主流はU字溝だが、これ(オノ神堰)は石積みで、自然にマッチした事業でやるということで、そういうものです。」

議長

「ほかにどなたか。」

A委員

「矢島の建物に関連し、あの事業の一環として鳥海でも何かやるという話があるが、あるか。」

佐藤総合支所長

「鳥海ではオノ神堰、鳥海だけでなく東由利も入っています。」

A 委員	「基本計画、国土利用計画、由利本荘市の全体で考えれば、こういう文章にしかならないし、立派な文章だと思う。しかし、合併の調印に至るまでに、鳥海町ではどういう事業を要望してきたのか。向こう 10 年間でどういう事業がほしいと要望し、取り上げられたのか、取り上げられなくても意見として出した部分、そういう部分があれば、私たちは身近に考えることなので。計画、あるいは要望したものの資料を用意してもらえれば。」
佐藤総合支所長	「事業ごとの細目については、合併前の協議会で明らかにしたものはあります。計画としては 10 年の計画で、それ以上のものもあり、回したものもあります。合併の際つくった建設計画の中であって、個別のものはこちらで持っています。それについては、合併協議会の中で鳥海の委員の皆さんに応援してもらいながら入れたものもありますし、当然、議会の中でもご意見を伺いながらやらせてもらったという流れになります。金額はかなり大きくなっています。」
A 委員	「由利本荘市という大きな組織の中で、私たちに言わせると、鳥海町として向こう 10 年間でどういう事業をやる計画で、合併協議会に臨んだのか。一番知りたいところだ。議員さんたちはわかるだろうが、おそらくここにいる人の大半はわからないと思う。」
佐藤総合支所長	「道路などは路線まで明らかにして事業費配分したのがありますが、合併後財政関係の計画も再度、昨日あたりの情報では、一般財源にかなりアンバランスが出てきていると。今一度、全体の事業の見直しをしなければならず、調整をするように連絡が入っています。平成 18 年度の事業についても皆さんに説明したいと思っていますが、今日の段階では発表できないものですから、ご理解をいただきたいと思います。」
A 委員	「職員が異動してしまえばわからなくなることもあり、そういうことが無いようをお願いしたい。要望を出したから通るという考えはない。計画にないものをやることもあり、それは皆さんわかることだ。ただ、鳥海地域としてどういうものを要望しているかをわかりたいだけだ。」
佐藤総合支所長	「合併協議会で旧町ごとの数値も出していますし、合併特例債をつかって、一体事業の中でまとまっています。それを見てもらえば大体わかりますが、事業を年々組み変えていかないと新しい事業が何もできないということにもなります。やはり予算総額の枠の話になるので、この鳥海地域に合った事業がどういうものであって、どういうふうに展開できればいいかという相談は、当然、この協議会の中でも問題にしていかなければならないと考えています。資料についてはこの次、提示させていただきます。」
B 委員	「平成 17 年度の予算は持ち寄りだったが、平成 18 年度は包括的ということだし、ある程度はこういう場で協議させていただければと思う。」
佐藤総合支所長	「平成 17 ～ 26 年度、鳥海町から出したもので、合併協議会で示された資料です。総額で 89 億 9336 万円となっています。総合ミュージアムは入っていません。一体計画で別個になっていまして、建設事業の部分でおよそ 90 億円。そのほか水道関係、集落排水事業を含めて 12 億 9 千万円、なんだかんだで 100 億円超えたなという思いでした。こういうものがあるということは次回、皆さんに。」
A 委員	「今すぐにでなくても、次回でも資料として出してもらえれば。合併協議会を

何回か傍聴に行ったが、やっていることは新市に引き継ぐとなっていたようだが、鳥海町でやっていたことが全部そうなるとは限らないということもわかっている訳だが、例えば昨年度まで人間ドックの場合、鳥海町では一人あたり3千円負担でできていたものが、今年は8千円になった。大腸検診は抜かれて、オプションでやると4千円かかる。今まで3千円でできていたものが、1万2千円の増になった。合併のしわ寄せがそこにも来ている。一般の市民は「合併してもいいことがないな」という思いのようだ。そこらへんを考えると、町としてどういう条件のもとに合併したのかということを知りたい。だから、どういうことを要望したのか。」

議長

「いろんな意味でそういう声はあり、これからもあると思う。サービスは高く、負担は少なくという調整であったが、現実的な問題も出てきています。」

佐藤区長

「これは各地域で手厚くやってきたのですが、やはり財政的に容易でない状態で合併したのであって、できるだけ負担を少なくしたいのだけれども、ならして。同じ市民ですので、ここだけ負担を少なくともいえないし、急激には変えないようにと抵抗している面もありますが、本当に財源が厳しくなっていることを理解してもらえないのではないかと思います。負担が少なくなったのは街路灯、消防とか。保育料は目玉として助成している状態で、ほとんどのものは負担が増えている。国保税なども、合併前から税金を上げなければならなかったが、できるだけ負担を少なくしようと抑えてきたのであって。だから鳥海は他より低かったのです。」

A 委員

「かかるものは同じだし、国保は補助していたので。それもわかるが、1年くらいは間を置いてならわかるが、合併と同時に上げるというのは。」

佐藤総合支所長

「合併協議会で「人間ドックの助成事業は合併時に統一」ということで確認されています。個別に出しながら協議しているものもあるし、「合併後に調整」というのは事務を進めながらということで1年を迎えようとしています。」

A 委員

「合併協議会の委員がいいと言ったからということで、何も言われませんが。そういう例もあるということ。」

C 委員

「48 ページの観光事業・施設の整備のところ、拠点施設の整備で矢島は花立牧場公園、青少年旅行村、鳥海高原矢島スキー場など具体的なものが出ているが、鳥海だけは「鳥海地域総合ミュージアム」で、曖昧模糊とした表現で、具体性が感じられず、まるでインパクトがない。36 ページの鳥海山麓観光交流ゾーンという説明を見ると、雪を利用した観光・スポーツ・レクリエーション等の開発を図り、シーズンを通した観光部門の振興ということで、自然をそのままということで、これも何のインパクトも感じられない。ここに起点となる場所とか、何かを入れるべきではないか。どこを中心としてどうするか、具体的なものがものすごく欠けていて、鳥海は何もないというのがわかる。この具体的な記述を何とか考えていただきたい。」

佐藤区長

「温泉、猿倉温泉郷とかなら、こことわかるのではないか。」

議長

「温泉とかの文言を入れてはどうかということで。ありがとうございます。文言については総合支所と検討するというので。ほかに。」

D委員

「その他になるのか、関連して3点ほど。一つには、前回、由利高原鉄道の話が出て、ここに2月16日の秋田魁新聞にJR境線で「ねずみ男列車」を走らせるというニュースが載っていて、私が発言したようなことが行われ、観光的にも注目を浴びている。私の案ですが、おばこの格好をした女性乗務員に接客してもらえる、また1両は座敷にして、何回乗っても1日乗り放題にすると、観光的要素もあり、改札から乗務員までおばこで。前回、高橋さんがフォレスタ鳥海まで東京からの直通バスを、と話されていたが、羽後交通も難儀なようなので。私は先日箱根温泉に行ってきたが、そのホテルでは自分の会社のバスで駅まで送迎している。フォレスタ鳥海も自分のところのバスで送迎すれば、従来あるバスを使ってやればと。一つの発想でできれば鳥海荘経由フォレスタとか。

もう一つ、2月10～11日に、この「和（なごみ）」という月刊の全国誌で、この中で毎月「日本の原風景を訪ねて、美しき村へ」というコーナーで、鳥海町を紹介したいと私のところへ取材に来ました。

自然が美しい、郷土芸能、マタギ、番楽…。記者は「ホテルまさか」に泊まったが、私のうちで夕食を食べてもらったんです。私のうちにあるもの、山菜、熊の肉、イワナの串炙り等々、そうしたら東京の方（記者）が涙を流して泣くんです。よほどこんなマタギ料理に感激したんだろうと思います。これが来年の3月には本に紹介されるんです。何とか、こういったもてなし方を通じて鳥海のいいところを全国に知らせ広める活動というものを皆さんとともに育てて行きたいと考えます。

3つ目ですが、2月17～18日、さがみ農協で2箇所の直売所を視察してきましたが、そこに、秋田しんせい農協のコメが1キロ480円で売られていた。30キロで1万5千円近い。消費者はそれでも、安心・安全ということで買っている。海老名の駅の周辺で、まち興しの、商工会のメンバーと会食したが、海老名には安心・安全な物がないと話しておりましたが、彼らが求めている物は、私たちのところにはいっぱいある、直売所にあるんです。雪が消えた4月下旬には必ず来ると言っていた。そういうことを含めて鳥海地域では行政から支援していただければと。住民が自ら行動して行政に支援してもらう時代なのかなと。鳥海町の農民自ら消費地に足を運び、消費者と直に交流すると、これが地域の活性化につながると、そういうことを感じて来ました。」

議長

「皆さんの知恵、アイデア出し合って、少しでも良くなっていきたいという心からの願望を意見として出していただいた。なごみというのは、漢字の和です。平成18年は12箇所を探す、その一つに鳥海を入れたと。熊、山兔、生きたイワナを串刺しにして囲炉裏であぶって食べてもらい、とても感動していた。大仕掛けなことも大事だが、おばこ号におばこ、直売所で地元産を高く売れないのか。来年の今頃は秋田国体バイアスロンが猿倉奥山で行われるので、全国から人が来る、私はこれに何かお土産を出せないかと考えている。地域のチャンスであり見過ごしてできない。皆さんからも意見を出してもらいたい。

区長

「さがみ農協に関しては牛を買いに来てもらっているの、こっちから売り込める物はないのかと、ふるさと鳥海の会の総会の翌日、市長と一緒に訪ねています。新しい直売所に産物を出してほしいということで、年間を通じて出せる物、米はあるが、味噌など店頭にある物が欲しい。この地域の大豆を使って計画的にやらなければならない。さがみ農協は、管内7市1町で地域の人口は100万人だそうです。そういう消費地をターゲットにして売り込みをやっていくべきではないかということで農協とも話をしています。

また、由利高原鉄道の関係では、ローカル線の再生計画を立てなければならないということで、社員、市の関係職員が一体となって計画づくりにあたって

います。今、北海道の方ではレールを走っていて、終点でタイヤを出して、そこからバスになって目的地に行く、乗車定員は17、18人ぐらいだが車両も安いということで、そういうニュースをキャッチし、それを入れて矢島駅で下ろさないで鳥海山に観光に行くとか、そういう案も出てきていますので、こういう話もしていきたいと思います。」

D委員

「ミュージアムの中身はわからないが、400年の歴史ある本海番楽がある。これを観光客に披露することができるのかなと。8月16日の獅子まつりがある。鳥海町に来る方々がいつ来ても見られるように。例えば、こういう建物の中に獅子まつりを再現する部屋を造っていただいて、その中で本海番楽を楽しめるようにすればそれができる。全国、世界からも来られるように。本物を見たい方は8月16日に来てくれるだろうし。」

議長

「全国獅子舞フェスティバルも3年前にやった。中国獅子は別にして、鳥海の獅子もすごいなと再確認した。私もこれにはずうっとかかわっており「バクチ、番楽、バカバクロウ」と言われようが、次は国指定を勝ち取ろうと頑張っている。この間も公民館の担当が兵庫県に行って講演もしたり。ほかに、何かあればお願いします。」

A委員

「国土利用計画と総合発展計画の協議は閉じていただいて、鳥海地域のことを協議して由利本荘市に要望して反映するというのが、地域協議会だと思う。私はそれが大きいと思う。そうでないと、地域協議会の意義が薄らぐのではないか。」

議長

「それでは、2番の基本計画案については、文言の訂正はあるものの、概ね了解するというので、閉じてよろしいか。」

一同

「はい。」

議長

「研修の計画が出ていますので、先に事務局から説明願います。」

振興課  
佐藤主席参事

「若干、説明させていただきます。先日、峰越手代奥山林道整備推進協議会の関係で八幡さんと協議のなかで、地域協議会で交流した方がいいのではということで文章化してみました。これは、第6回の地域協議会と兼ねて、ということで、目的は地域課題の顕在化と解決方策、そして主要な議題であります環鳥海という広域連携の視点でものを考える、ということテーマとして、日時は3月18日。当初、18或いは19日と考えておりましたが、視察予定のキノコ屋さんの都合により土曜日の設定となりました。場所は酒田市八幡総合支所の予定です。」

議長

「鳥海山をぐるっと回って来るところに意義があると話し合ったところです。こうして研修はいかがか。全員参加で実施できれば。」

B委員

「検討して決めたことだし、相手のあることなので。」

議長

「ということで18日に計画し、3月15日まで報告ということで。」

一同

はい。

議長

「研修計画は、原案のとおり実施するというので確認されました。そのほか

に何か。』

D委員

「日ごろ思っていることですが、隣の八幡町と交流しながら峰越林道の整備、道路を造ると。矢島の立石で地滑りが起こって通行止めになった。国道7号で何かあった時には108号を回らないと行けない。7号の迂回路も必要ではないか。観光だけに結びつけるのではなく、応急措置としてそういうことに備える、早期に実現できるように要望していくようお願いしたい。」

議長

「この後どうなるのか、要望しながら見守っていく必要がある。基本計画の中では検討課題となっており、要望を続けたいと思います。」

佐藤区長

「これに載せてもらったということは、実現に向けて運動を展開していくということだと思います。前から国会にも陳情に行っているし、日本海沖に地震の空白域があり、いつ起きても不思議でない状態だということで、国道・鉄道に被害があれば、交通網が寸断されるということで、そういう場合の迂回路にもなるし、観光にも使える。今回は、鳥海ダムの位置づけで国の承認が得られれば、はっきりと決まるということで、ダム建設に向けた資材・機材の運搬用道路などもPRしながら運動を展開していくということで話をしており、市の方にも理解していただいて頑張っていきたいと思っております。」

議長

「ほかに何か。」

B委員

「一点は、今までの鳥海町の事業計画のことについてはなるべくやっていただきたいというのが、住民の要望であり、進捗状況やら、予算とか、ここで公表できるものは次の会議に出していただきたい。あと、敬老会の運営面についての意見や要望がありましたので、この場で検討していただければと。鳥海町のミュージアム事業、学校改築等新しい大きな事業が載っていますし、長期的な計画の運動というか、住民がどう考えていくのか。早めに市に要望できるような、鳥海として一致団結して、住民の意識を盛り上げるように。そういうこともこの協議会で検討するというか、声を吸い上げるというか、この地域協議会で、ミュージアム事業の場所はこのあたりとかの要望など、本来の地域協議会にするということで精査できるようにするのがいいのではないかと。」

議長

「平成18年度はどういうものがあるのですか。」

佐藤総合支所長

「継続でやるのは、笹子診療所の改築が計画されています。悠楽館の並びの敷地です。この地域としては大きな事業だととらえています。」

B委員

「除雪についてもいろいろあったと思うし、住民の声を吸い上げて議論し、市に提言・要望することが必要だろうし、丁寧に住民の声を吸い上げて議論することが大事だろうと。」

佐藤区長

「旧鳥海町で、振興計画で計画したものは、ほとんど引き継いでいる。笹子の診療所は早まっているし、平根地域の下水道、水道管の移設、上川内の水路など、今まで計画したものは事業化されています。」

A委員

「下水道は百合茎で終わりか。」

佐藤区長

「そうです。」

A 委員

「前の総合発展計画の（主要事業一覧）96 ページに先人顕彰館があるが、名誉町民の高橋荘助さんは3千町歩の植林を成し遂げた。優れた収益源だけでなく、働き口の確保にもなるということでやり、皆いい山になっているが、合併でほとんどその財産は市の財産になった。鳥海町に残るものは何かとなれば、地域としては顕彰碑でも建てて敬うのがいいのではないかと話をしたら、やらなければならないと。鳥海の協議会の名のもとに、進言すれば実現できるのではないかと。皆さんの賛同を得て、故高橋荘助氏を顕彰していただくように要望してはどうか、皆さんのご意見をお伺いしたい。」

議長

「合併の時も申し上げたが、大変な財産で、誇りであると。今後検討しながら要望したいと考えますが。」

B 委員

「市民の意見、要望として出すのはいいのではないかと。」

議長

「平成18年度の要望として相談することとしてとどめたいが、大きい問題なので、慎重に対応したいと考えますが。」

A 委員

「何も大きな問題ではない。地域の声を届けるための地域協議会ではないか。報告だけの協議ではないと思う。そのために設けたのではないかと。」

議長

「順序を踏まえてやらなければならないことでもあり・・・。」

A 委員

「言ったから必ずできるかどうかはこっちで決めるのではなく、市が決めること。要望だから、検討するかどうか。言うことが大事なのであって。」

B 委員

「顕彰に値するかどうかは執行部で考えることだろうし。こういうことから盛り上げることは悪いことではない。」

議長

「せっかく要望するのであれば、実現の方向でやりたい。他旧町との調整問題もあるでしょうし、この顕彰問題は先送りしてではないでしょうし。」

A 委員

「96 ページに先人顕彰館の計画がある訳だから、それを協議したからと言って悪い訳ではない。」

B 委員

「皆さんに諮っていただいて、いいとすればいいことで。」

E 委員

「誰も反対する人はいない。」

議長

「27 日はこの計画についてですが、元町長が3千町歩を達成され、市として大変な財産をもらったということで先人の顕彰碑を造るべきではないかということで、意見具申をすることとして。皆さん、反対はないですか。」

F 委員

「合併記念としてやるのも悪くはない。計画の中に入れておいてもらいたい。」

議長

「合併記念としてやるにしても、先に延ばすようなものでもない。この後、区長と協議しながら上に届けるように対応して参りたい。私の方では満場一致で出ましたという形で。」

成人式は実行委員会で一本でやったが、敬老会はどういう形で話し合われているのですか。」

福祉保健課 佐藤主席参事	「一昨年から鳥海地域一本化ということで、平成 18 年度も同様の形でと考えています。」
B 委員	「旧本荘市に合わせているというのがかなりある。長年、各地域でやってきたものが削られている可能性もある。直すものは直した方がいい。声がなければそれでいいと見られる。ここで声を聞いて、直すものは直した方がいいと思う。」
A 委員	「金婚式はない。別個にやっている町もある。」
佐藤区長	「こういうものは、同じ市民でありながら、あっちこっちで違うというのは地域の差別になるので。時間はかかってもならされていくものと考えます。」
B 委員	「ならせるものはならず。地域によって、立場によって税金を充てるものに差があってはならないが、運営面については、地域地域で工夫できるところは工夫して。」
佐藤区長	「そういうのはいいと思います。」
A 委員	「鳥海町では、こういう金は自由に使えるという金はあるのか。」
佐藤区長	「緊急に使うというものは…。イベントの経費は要求しているし、今までどおり例えば 300 万円と言っても切りつめて 250 万円とかにはなっているようです。」
A 委員	「敬老祝金も…」
福祉保健課 佐藤主席参事	「節目の祝金はすべてなくなっています。100 歳、95 歳、90 歳は支給されます。運営にかかる各総合支所のことは把握していません。予算的なものは要求しています。」
A 委員	「経費は出席者で割り出すのか。」
福祉保健課 佐藤主席参事	「対象者に出席率を勘案して出しています。送迎のバス代なども含めて。」
A 委員	「やり方は旧町に任されており、変えれば変えられる。」
佐藤区長	「対象者何人に出席率何%で、一人あたりの酒の量、ビール、折詰、スクールバス、羽後交通のバスなど…。婦人会の協力もいただいております。」
B 委員	「敬老会に入っている人の声としては、多くの人が年に一回、会って話してゆっくりやりたいというのが主だ。」
議長	「対象者は 70 歳以上か。」
福祉保健課 佐藤主席参事	「75 歳以上です。」
C 委員	「鳥海地域の人口減が問題になるなか、来年、直根小学校が複式学級になる。」

市の教育委員会に県から移譲される権限が下りている。市の方に教職員の加配について要望しているか。このことは強く要望してほしい。」

区長・支所長

「やっています。」

議長

「ほかには。では、以上で本日の会議を閉じます。次の協議会からは各課長からもテーマを出して発言して欲しい。よろしくお願いします。」

村上振興課長

「最後に総合支所長が締めあいさつを申し上げます。」

佐藤総合支所長

「本日、午前9時、豪雪対策本部から雪害警戒対策部に格下げするという連絡がありました。まだまだ警戒は必要であり、雪崩、融雪による増水などに対する警戒と、チラシの配布による呼びかけを行います。川内保育園の改築が終了し、月曜日から保育業務を行っています。2月25日に一般公開があります。時間がありましたら、ご覧になっていただきたい。3月18日の研修バスの中で平成18年度の予算概要を説明したいと思います。平成26年度までの計画を説明申し上げながら、ご意見をいただければと思います。引き続き、地域の情報などもお聞かせくださるようお願いします。」

(終了 午前11時48分)